

## クスリ：痛み止め

**Q4** 歯が痛くて歯医者さんを受診したところ、痛み止めと胃薬をもらいました。飲んでも心配ないでしょうか？(65歳、男性、透析歴2年)

**A4** 透析患者さんは合併症が多く、解熱鎮痛薬を服用する機会は、一般の患者さんよりも多いのではないかと思います。

今回処方された痛み止めは、胃薬と一緒に処方されていることから、NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）というお薬ではないかと思われます。NSAIDsは最も広く使われている解熱鎮痛薬で、市販のお薬としても出回っています。解熱、鎮痛の効果は確実である反面、長期間服用していると副作用も増えてきます。有名な副作用として腎障害と胃腸障害の二つがあげられます。

腎障害に関しては、既に透析を受けている患者さんには影響はありませんが、腹膜透析をしていて残った腎機能や尿量をなるべく長く保ちたい患者さん、透析を受けていない患者さんにとっては大きな問題となります。短期間の服用で急に腎機能が悪くなることもあります。すぐに中止すれば元の腎機能に回復することがほとんどです。しかし、長期間服用を続けてしまい、気付いたら腎不全が進んでいたという患者さんもいらっしゃいますので注意が必要です。

胃腸障害も重篤な副作用の一つです。透析患者さんは胃腸の粘膜が弱いといわれていま

すので、NSAIDsによる胃腸障害も多いと考えられます。胃腸の粘膜障害が進むと、潰瘍を形成してそこから出血したり、時には穴が開いたりして緊急手術になることもあります。胃薬と一緒に飲むことで胃や十二指腸の粘膜障害は予防できることが多いのですが、最近では小腸や大腸の粘膜障害も少なくないことがわかってきて、こちらに関しては予防が難しいといわれています。

上記のような副作用を避けるためには、長期服用を避け、症状が強い時だけに服用して、なるべく回数を減らすことが重要です。どうしても痛みが続く場合には、副作用の少ないアセトアミノフェン（カロナール<sup>®</sup>）やトラマドールとアセトアミノフェンの合剤（トラムセット<sup>®</sup>）などへの変更が望ましいと思われます。トラマドールには眠気や吐き気の副作用がありますが、吐き気に対しては吐き気止めと一緒に服用することで予防が可能です。

歯医者さんに限らずかかりつけの透析病院以外の医療機関を受診する際には、透析を受けていることと服用中のお薬の情報を伝えることが、自分の身を守る意味でも大切です。

(岡英明、原田篤実)

松山赤十字病院 腎センター・医師